障害を持つ子どもたちの現状は

からだに障害をもって生まれてきた子どもたちは、18 歳まで養護学校に在籍できます。卒業すると、軽度の障害をもつ方は作業所などを利用して、自立の道を探します。
しかし、重度の障害をもつ方の場合、歩くことや身の回りのことができない場合がほとんどです。
子どもが年をとるということは、親も年老いていくということ。
「自分がこの子の世話をできなくなったら、どうなるんだろう？」という不安と、
いつも背中合わせの現実です。

重度の障害を持つ人を受け入れる施設はほとんどありません。介護のしやすさは大切ですが、それを優先することにより、まだ動く体を寝たきりの状態にさせてしまう事実も存在します。

なんとかしたい！

医療的ケアのできる施設を！

重度の障害を持っている場合は、痰の吸引、経管栄養、導尿など、医療的ケアが必要となる事が多々あります。蕗の薹では、医療的ケアができ、重度の障害のある方が穏やかに生活できる場を作りたいと考えています。

社会とのつながり

施設は、押し込めておく場所ではありません。家族や友人と楽しく語れる居場所づくりはもちろんのこと、みなさまに知っていただくためのイベント開催や、地域に貢献できる活動も行っていきたいです。

特定非営利活動法人「蕗の薹」

蕗の薹（ふきのとう）の由来

ふきのとうは、冷たい雪をかきわけて春一番を告げてくれます。団体名はあえて難しい漢字にしています。それは障害者施設設立を目指すからこそでした。
よく、障害があるからできない、年をとっているからできない、という言葉を耳にします。

できなければどうしたらよいか。
知恵をしぼり、努力することこそが大切なのです。

「ふき」は、くさかんむりに道路の路。
「とう」は、くさかんむりに大吉の吉。そして教室の室、うかんむりの点がないもの。
覚えてしまえば、決して難しくはありません。

どんな厳しい冬でも、必ず春はやってくることを忘れることなく
私たちは歩き続けたいと思っています。

私も「蕗の薹」を応援します！

つボイノリオ
ラジオパーソナリティ

２０１０年２月２７日、岡崎のせきれいホールで、初めてみなさんにお会いしました。あの時は本当にお世話になりました。みなさんが、がんばっている姿に感動しました。人は弱いものですが、力を合わせて助けあえば、とても強くなれることを教えてもらいました。完璧な人間などいません。
考えてみれば、私も多くの人に助けられて、ここまできました。今後もそうなることでしょう。しかし、これからは少しでも、お返しできればと思っています。無力さは感じますが、私なりに精一杯がんばります。また、時々みなさんに元気をもらいに行きます。その日を楽しみにしています！

山田　富也
社会福祉法人　ありのまま舎
常務理事
（故人：生前いただいた文章です）

私たち障害を持った者は、施設や病院に入ることを余儀なくされます。
私が数年間の入院生活でつくづく感じたことは、プライベートなものが一切ないということでした。
自分たちの理想の場所を作り運営するには、どうしても自己負担が大きいものです。そのためにも、多くの市民の皆さんの理解と協力、また地元企業の皆さんの協力が不可欠です。
是非とも、一人でも多くの市民の皆様のご協力をお願いいたしますとともに、理想を掲げ皆が集える場を作る活動を始めた「蕗の薹」の応援を宜しくお願いいたします。

書籍のご案内

栗木　宏美　著
「キュウリは真っ直ぐじゃないといけないの？」
定価　1,365 円（消費税込）
発行・発売　ヴィレッジブックス

誰もが気軽に使えて地域に根ざした

障害者のためのホスピスをつくりたい

特定非営利活動法人
蕗の薹
ふきのとう

http://www.geocities.jp/fukinotou07/
連絡先：080-4305-7644